昭和34年７月27日第三種郵便物認可　毎月１回１日発行
令和４年12月25日印刷　令和５年１月１日発行　第65巻第１号　通巻第758号

ぺんの力（ちから）

美しい文字・個性的な書

お正月・元旦写経案内

公益財団法人 日本書道教育学会　1/2023

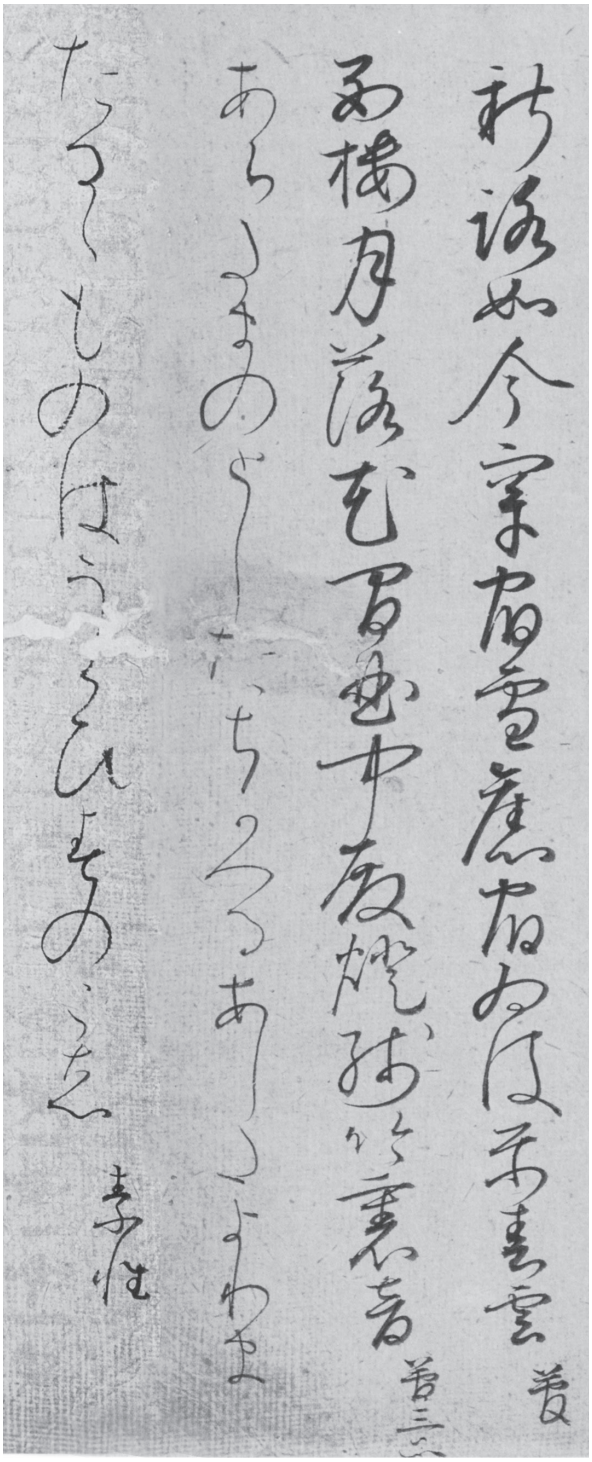
ぺんの力　2023　1月号　公益財団法人 日本書道教育学会

専攻コース

規定課題

（会友～六段）

※左の『粘葉本和漢朗詠集』の「新路如今」から「う久ひ春のこ恵素性」までをペンで臨書しなさい。



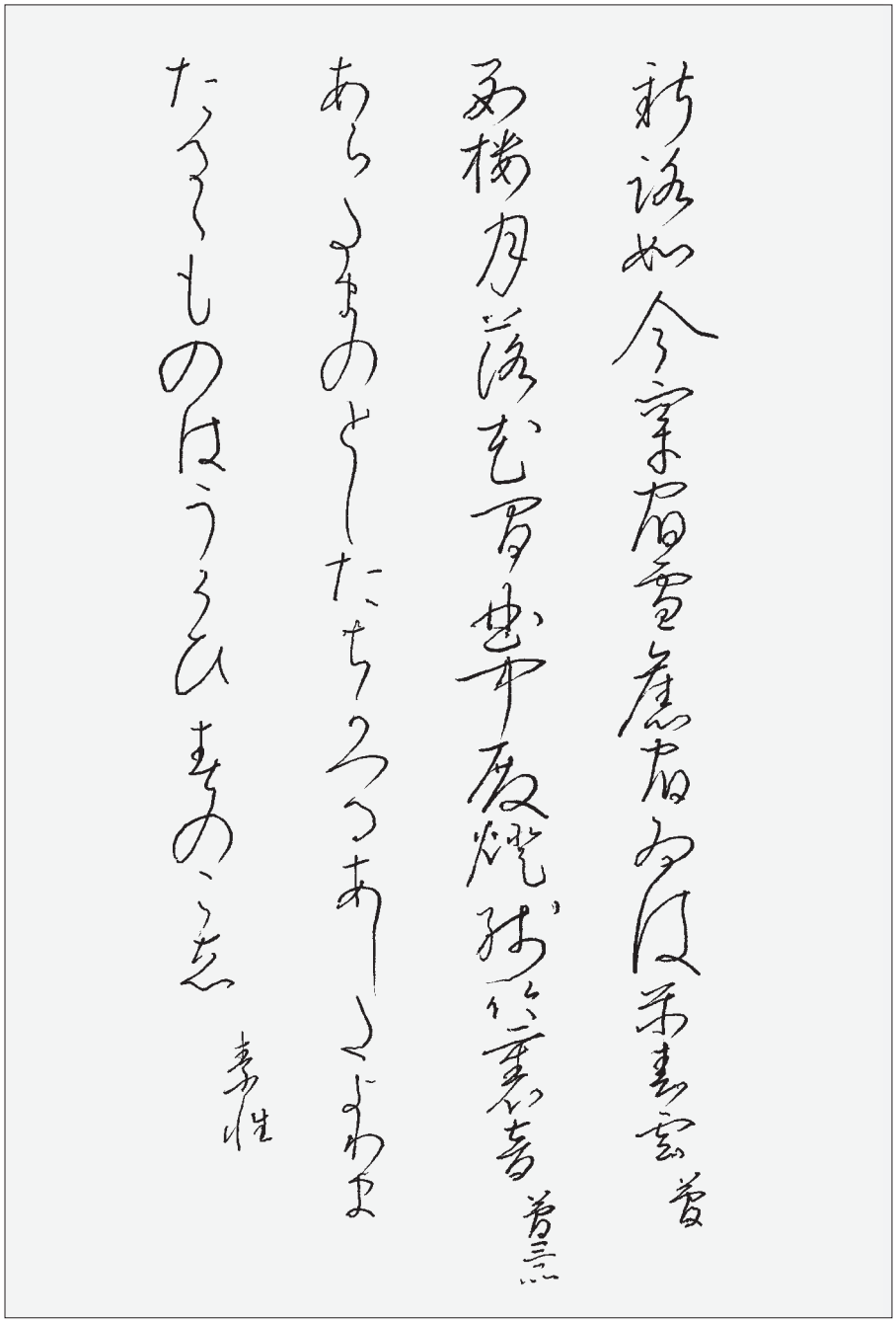
〈原文〉新路如今穿宿雪、舊宿（巣）為後属春雲。菅
西楼月落花間曲、中殿燈殘竹裏音。菅三品
あら多末のとしたち可へるあし多よ利末
たるゝものはう久ひ春のこ恵　素性

〈読み〉新路（しんろ）は如今（いまし）宿雪（しゅくせつ）を穿（うが）つ、旧巣（きゅうそう）（宿）は後のために春の雲に属（しょく）す。
菅（かん）／西楼（せいろう）に月落ちて花の間（あひだ）の曲（きょく）、中殿（ちうてん）に燈（ともしび）残（のこ）りて竹の裏（うち）の音（こゑ）。
菅三品（かんさんぼん）／あらたまの年たちかへる朝（あした）より待たるるものはうぐひすの声　素性（そせい）

〈出典〉
『粘葉本和漢朗詠集 巻上』伝藤原行成筆　70～72

〈大意〉
○鶯が初めて谷から出ようとする今は、残雪を堀りあけて新しい路を求め、今まで棲んでいた古巣は、再び帰った時棲むために春の雲に頼んでおく。菅原道真（すがわらのみちざね）
○春の暁方、内裏の西楼に月が傾くころ、鶯が花の間で面白く鳴き、清涼殿にまだ燈火が残っている時に庭先の呉竹の中で鶯が囀（さえず）っている。菅原文時（ふみとき）
○年が新しくなる元日の早朝から、自然と心待ちにされるものは、鶯のさわやかな初音をおいてほかにない。素性

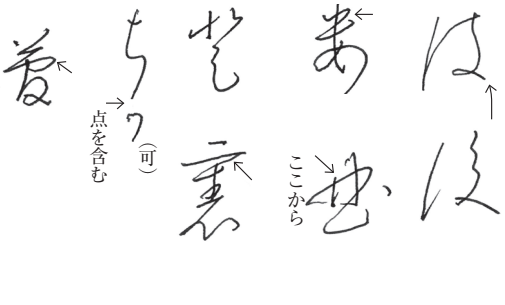
（参考手本は次ページ）



堀津節子臨
（つけペン）

〈解説〉
今月の漢詩句は草書が多用されています。筆路をしっかり把握して臨書してください。和様独特の懐の広いゆったりとしたリズムを学びましょう。

【文字解説】



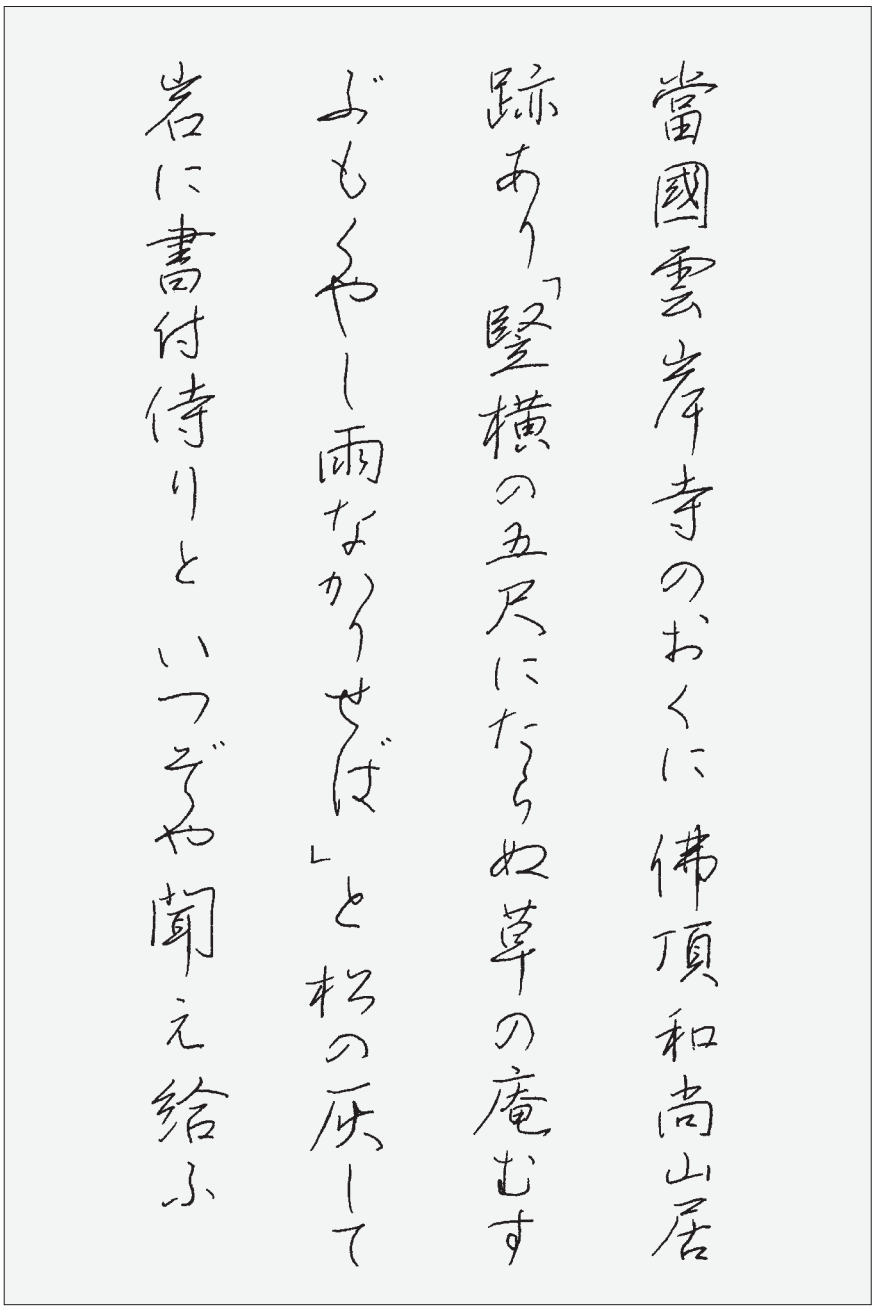
用具　つけペン、万年筆またはデスクペン（ボールペンは不可）、インクは黒色
用紙　ぺんの力用紙A型（B型も可）
※バーコード出品券と月別出品券Ⓐの2枚を貼って出品してください。

専攻コース

規定課題

（五段～初段）

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。



加藤玲子書

（つけペン）

〈読み〉
当国雲岸寺のおくに、仏頂和尚山居跡あり。「竪横の五尺にたらぬ草の庵むすぶもくやし雨なかりせば」と、松の灰して岩に書付侍りと、いつぞや聞え給ふ。

〈作者〉松尾芭蕉
（一六四四～一六九四）

〈出典〉『奥の細道』

〈大意〉
下野国（栃木県）の臨済宗雲巌寺の奥の山に、私の禅の師である仏頂和尚が山ごもりしていた跡がある。「縦横五尺に満たない草の庵だが、雨が降らなければこの庵さえ必要ないのに残念なことだ。（住まいなどに縛られないで生きたい）」と、松明の炭で岩に書き付けたと、いつか話してくださった。

〈解説〉
一行目で旧字体と筆写体を使いましたので馴れましょう。漢字も多く字粒や字間のバランスで、印象が変わりますから十分書き込みましょう。

常用体	筆写体	旧字体
当	當	當
国	國	國
雲	雲	
岸	岸	
仏		佛
和	咊	
跡	跡	
横	横	横
松	松	

用具　つけペン、万年筆またはデスクペン（ボールペンは不可）、インクは黒色

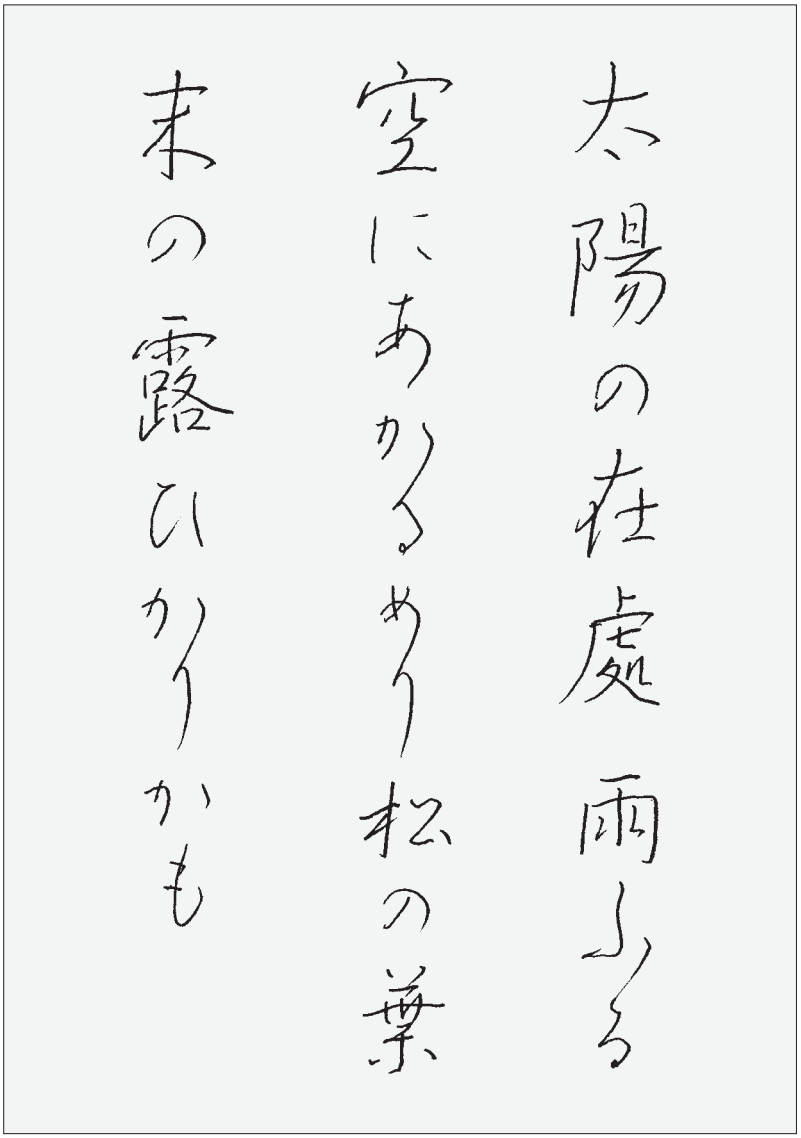
用紙　ぺんの力用紙A型（B型も可）

※バーコード出品券と月別出品券Ⓐの2枚を貼って出品してください。

専攻コース

規定課題（1級〜5級）

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。



堀津節子書

（つけペン）

〈読み〉 太陽（ひ）の在處（ありか） 雨ふる空にあかるめり松の葉末の露ひかりかも

〈作者〉 木下利玄（一八八六〜一九二五）

〈大意〉 雨が降っていた空に太陽が顔を出して明るくなってきたようだ。松の葉末にたまった露が光り輝いていることよ。

〈解説〉 漢字の多い一行目は文字を大きめにゆったりとまとめ、かなが多い二行目は文字を少し小さく書く。

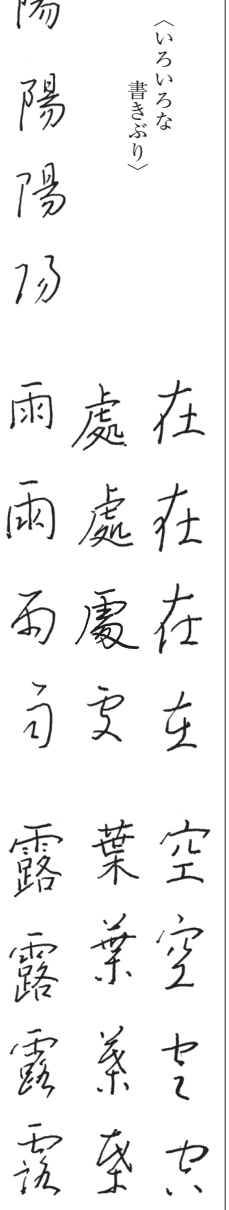
用具　つけペン、万年筆またはデスクペン（ボールペンは不可）、インクは黒色

用紙　ぺんの力用紙G型

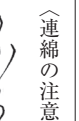
※バーコード出品券と月別出品券Ⓐの2枚を貼って出品してください。

〈解　説〉

〈いろいろな書きぶり〉



〈連綿の注意点〉



上の文字の収筆から※印まで一文字のように続ける

専攻コース

規定課題

（6級〜10級）

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

無窮者日月長
在者山川
無窮者日月長
在者山川

福原溪春書　（つけペン）

〈原文〉無窮者日月　長在者山川
〈読み〉窮まり無き者は日月、長しえに在る者は山川。
〈作者〉白居易（七七二〜八四六）
〈大意〉日月は無限であり、山川は永久に存在する。
〈解説〉○今回も対句になっています。一行を五字に配すると「者」が並ぶので、六字に配しました。
○「日」は小ぶりに書きます。
○行書は気脈に留意し、躍動的な線を目指しましょう。

用具　つけペン、万年筆またはデスクペン（ボールペンは不可）、インクは黒色
用紙　ぺんの力用紙G型
※バーコード出品券と月別出品券Ⓐの2枚を貼って出品してください。

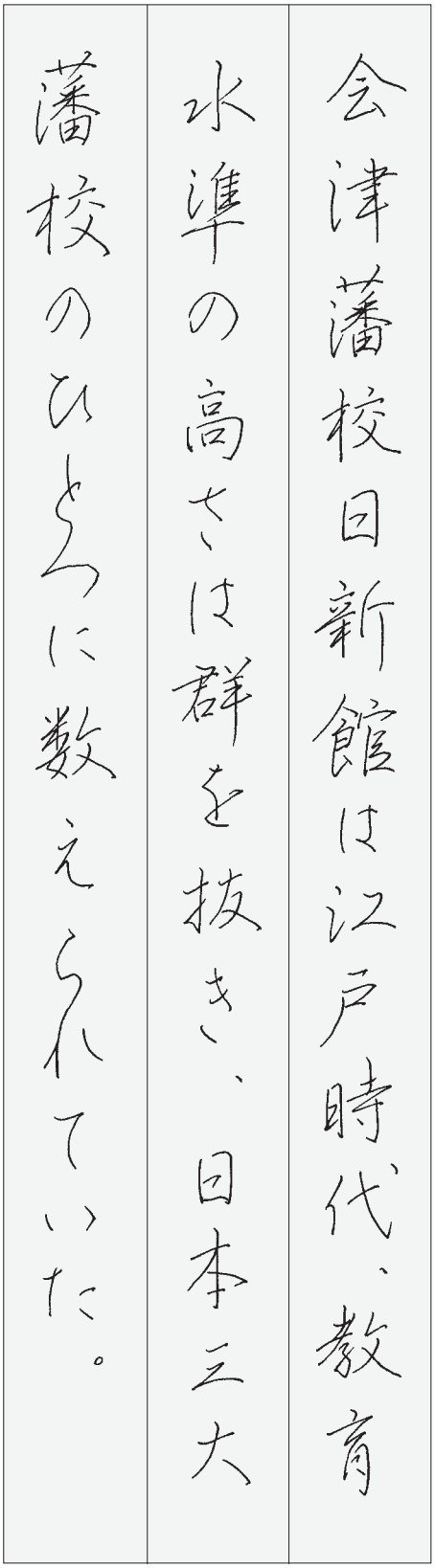
〈解　説〉

基礎コース

規定課題

（五段～初段）

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。



宮田須美子書
（デスクペン）

〈解　説〉

常用体	旧字体	筆写体	常用体	筆写体
数	數	数	館	舘
抜	拔	抜	高	高
教	敎	教		

〈読み〉　会津藩校日新館（にっしんかん）は江戸時代、教育水準の高さは群を抜き、日本三大藩校のひとつに数えられていた。

〈出典〉　旅行ガイド ブルミエ『磐梯・会津・喜多方』徳間書店より

〈解説〉　一行目、漢字が多いので中心が曲がらないようにかきましょう。

用具　つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペンも可　インクは黒色

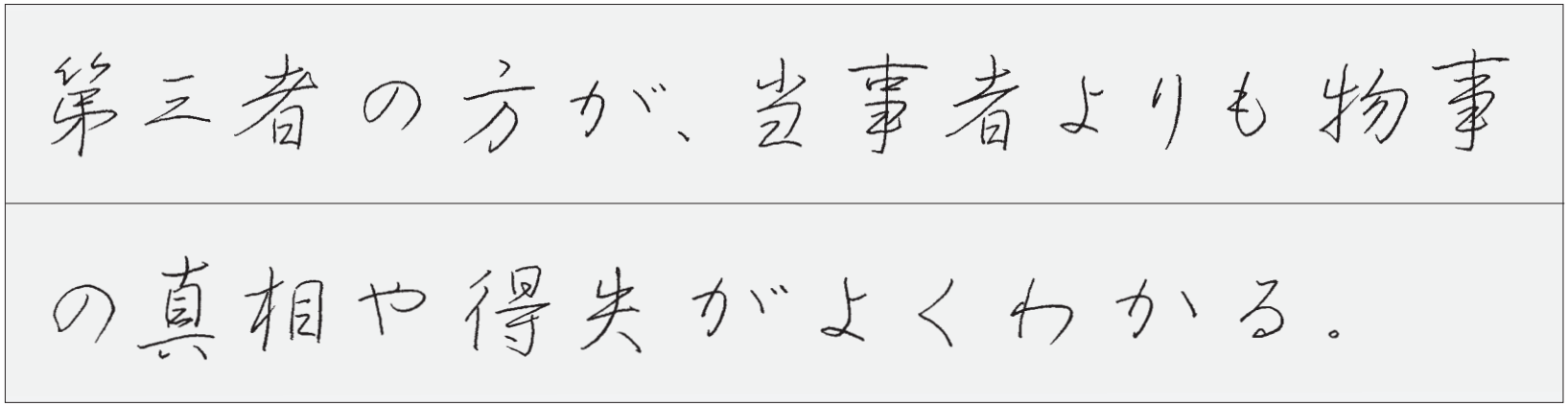
用紙　ペんの力用紙3行書き

※バーコード出品券と月別出品券Ⓐの2枚を貼って出品してください。

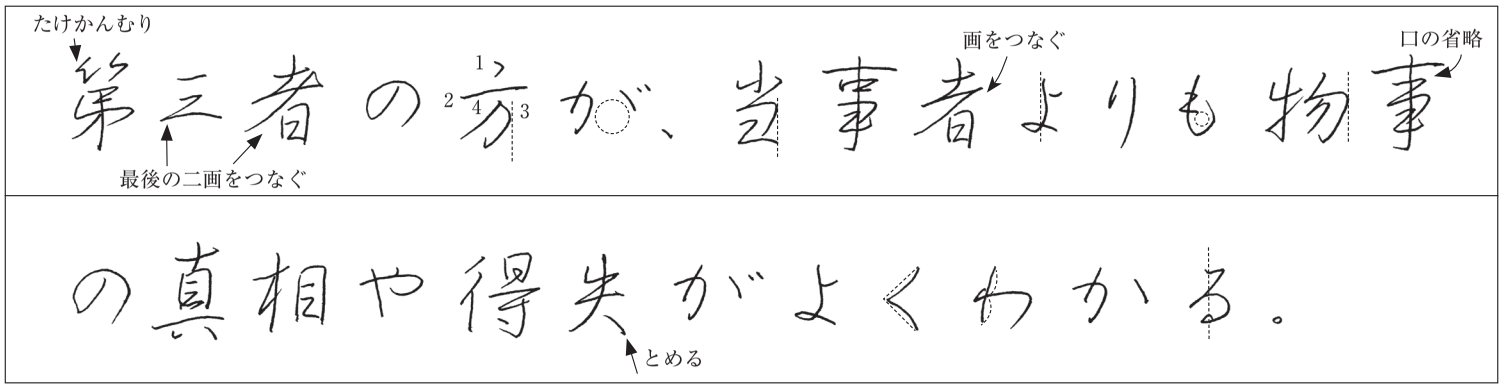
基礎コース　規定課題　（1級～5級）

※下の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

加藤玲子書　（デスクペン）



↑ここに貼る↑
月別・バーコード券



〈読み〉　第三者の方が、当事者よりも物事の真相や得失がよくわかる。　〈出典〉　ことわざ・岡目八目（おかめはちもく）

〈解説〉　同じ文字がある時は多少変化をつけ、字間が不揃いにならないようにまとめましょう。

用具　つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペンも可　インクは黒色　　用紙　ぺんの力用紙２行書き

※バーコード出品券と月別出品券Ⓐの２枚を貼って出品してください。

基礎コース　規定課題（6級〜10級）

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

福原溪春書（つけペン）

初東雲　恵方　雪下駄
たからぶね　まつのうち

〈解　説〉

〈読み〉初東雲（はつしののめ）　恵方（えほう）　雪下駄（ゆきげた）
たからぶね　まつのうち

〈出典〉『最新　俳句歳時記』

〈解説〉「初東雲」・・・元日の明方のこと。初曙（はつあけぼの）とも言う。※漢字は線の方向や長さ、点の変化にも留意してください。平がなは筆脈に留意して滑らかな運筆を心掛けましょう。

用具　つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペンも可　インクは黒色

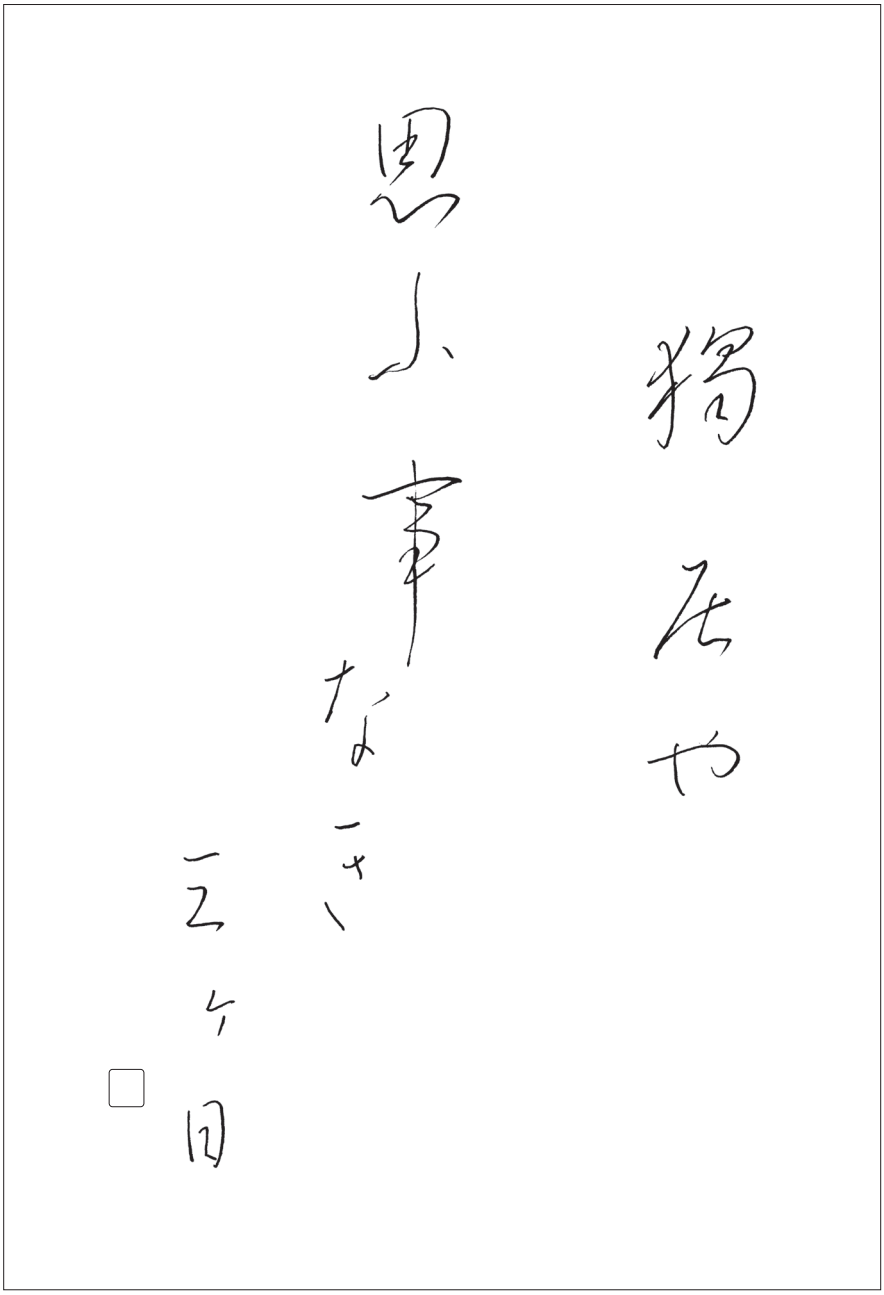
用紙　ぺんの力用紙2行書き

※バーコード出品券と月別出品券Ⓐの2枚を貼って出品してください。

随意課題 ═つけペン═

専攻コース（1級〜10級）
基礎コース（全員）

※左の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。
用紙を縦にして縦書きとしてください。



堀津節子書

〈読み〉
獨居（ひとりゐ）や思ふ事なき三ヶ日（さんがにち）

〈作者〉
夏目漱石
（一八七三〜一九三七）

〈大意〉
お正月の三日間を一人でくらしていると、やりたいこともなく、ただ時間が過ぎてしまった。

〈解説〉
連綿はないが気持ちは切れないようにして書く。雅印を押し左右の余白が同じ位になるように仕上げる。

用具　つけペン、万年筆またはデスクペンインクは黒色　ボールペンは不可
用紙　ぺんの力用紙Ａ型

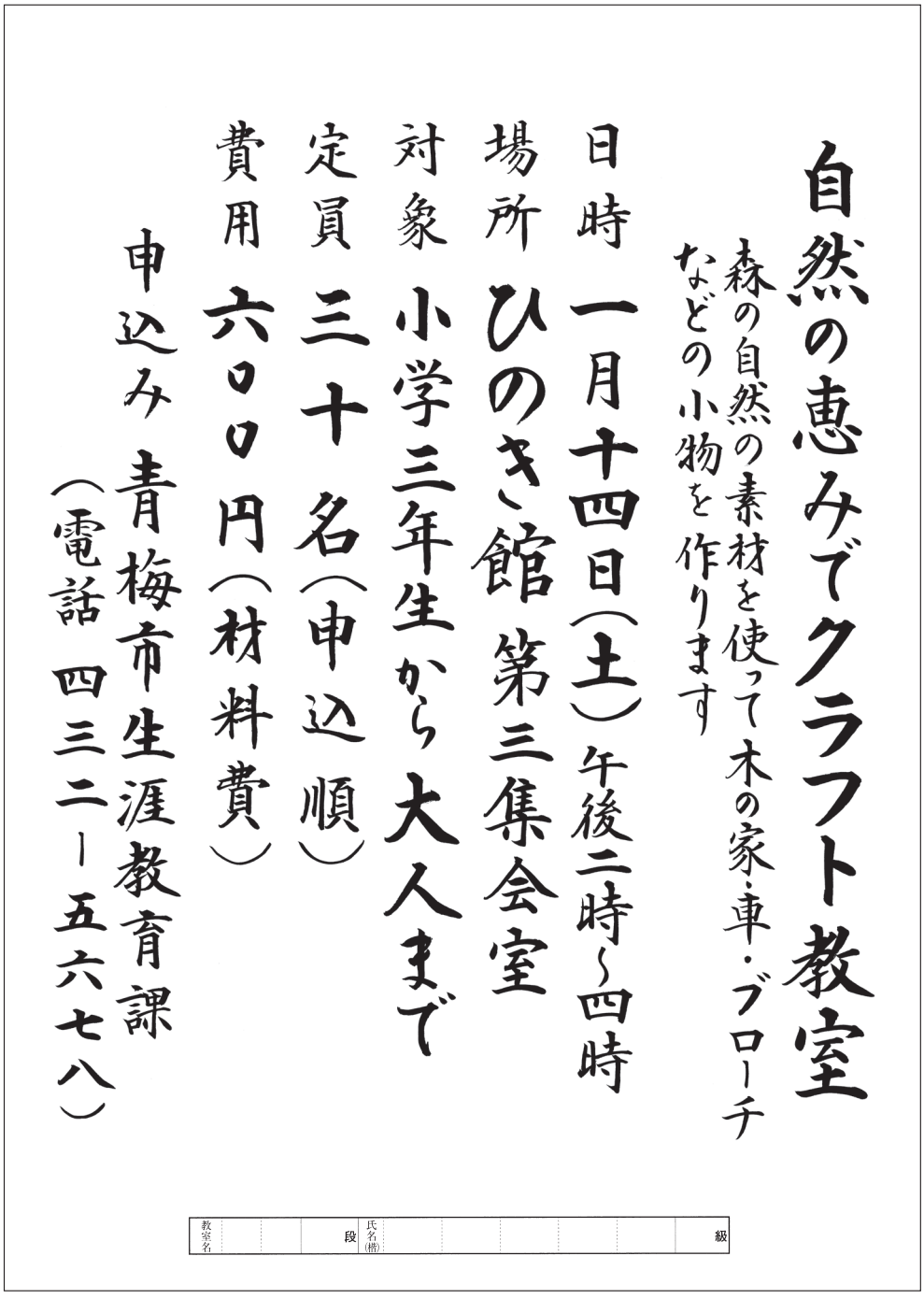
※規定コースの**段級を必ず記入してください**。
記入のないものは段級不明となります。
※バーコード出品券と月別出品券©の2枚を貼って出品してください。

随意課題　筆ペン

専攻コース（１級～10級）・基礎コース（全員）

※下の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。

小島鳳洽書
（毛筆タイプ）



〈解説〉「から」「まで」のように助詞として使われている平仮名は小さく書きますが、「ひのき館」のような名詞ははっきり大きく書きましょう。

用具　筆ペン　インクは黒色

用紙　ぺんの力筆ペン用紙、またはＢ４判（タテ36・４cm・ヨコ25・７cm）コピー用紙を縦に使用。

※下欄の不二教室名・段級・氏名のわくは、A型用紙（コピー可）のものを貼るか、筆ペン用紙をお求めください。手書き不可。（作品には不二教室名・段級・氏名を必ず明記してください）。

※規定コースの**段級を必ず記入してください**。記入のないものは段級不明となります。

※バーコード出品券と月別出品券Ⓓの２枚を貼って出品してください。

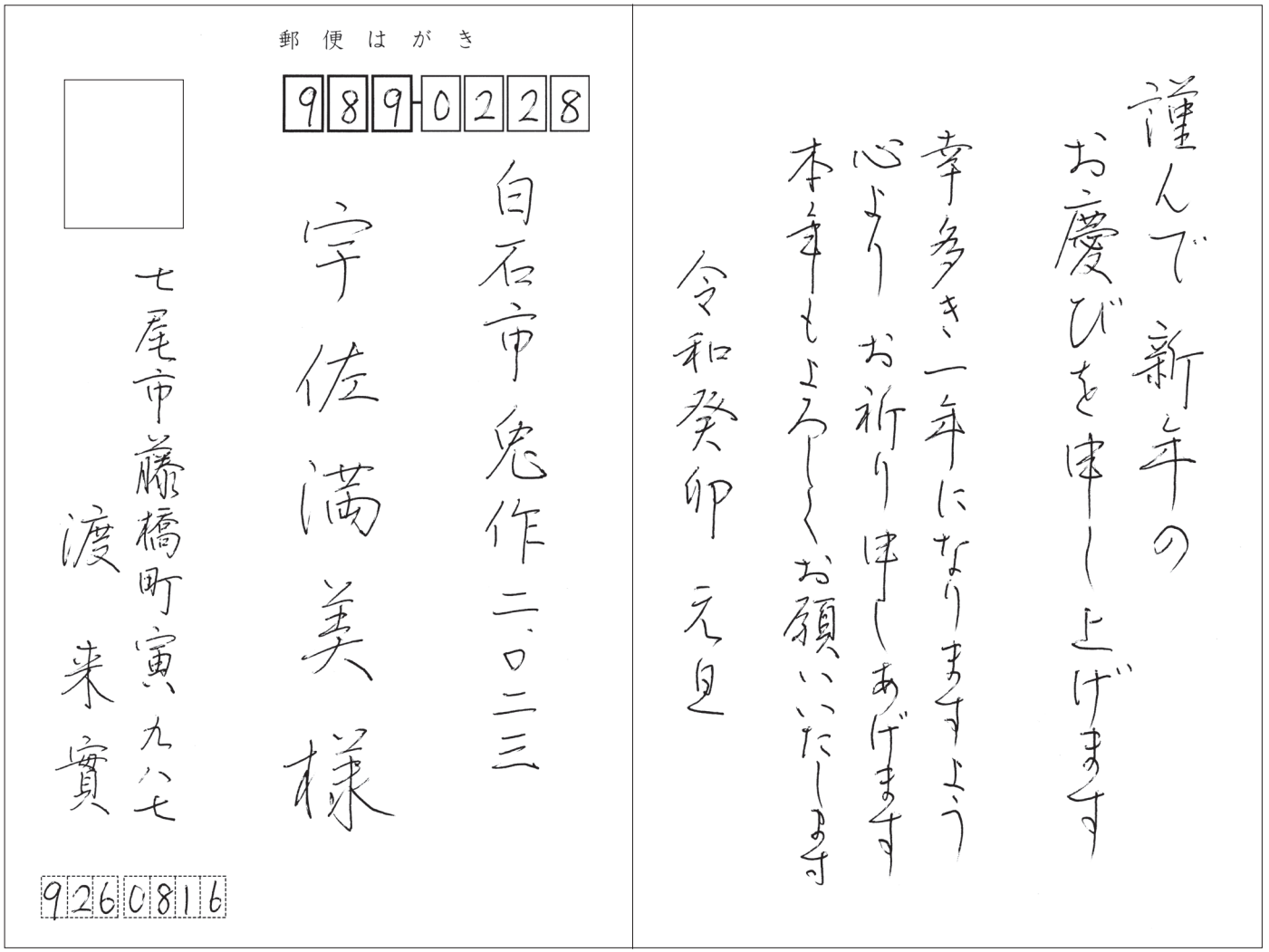
随意課題

ボールペン

専攻コース（１級～10級）・基礎コース（全員）

※規定コースの**段級を必ず記入してください。**記入のないものは段級不明となります。
※バーコード出品券と月別出品券Ⓔの２枚を貼って出品してください。

※下の手本を参考に、自分の書きぶりで書きなさい。



↑ここに貼る↑
月別・バーコード券

〈読み〉謹んで新年のお慶びを申し上げます　幸多き一年になりますよう心よりお祈り申しあげます
本年もよろしくお願いいたします　令和癸卯　元旦

〈解説〉
・通信面は字間が一定にならないようにします。特に行尾は字間を狭くして安定感を出します。
・「年」「ます」は形に変化をつけましょう。
・連綿は右肩下がりの線も使いながら下への流れを出しましょう。

用具　ボールペン（油性・水性・ゲルインクのどれでも可）　インクは黒色
用紙　ぺんの力用紙Ｃ型

専攻コース（会友〜初段）

随意課題

ボールペン（横書き）

遊星をめぐる衛星群が、まとまって一つの太陽系を作るように、あるいはまた、大宗教家を中心として一宗一派が生ずるように、書道においても、一個の偉人を中心として、書風の一統一派が生ずるのである。

↑ここに貼る↑

月別・バーコード券

『犀水書話』48ページより

筆ペン（掲示文）

講演会「プレーパークってなに？」

プレーパーク（冒険遊び場）の魅力や
運営方法などをご紹介します

日　時：1月21日（土）10:00〜11:30
会　場：七海公園（中央3－18－5）
対　象：子育て中の方、運営に興味のある方
申込み：当日直接会場へ。荒天中止
主　催：足立区若者活動支援係
（電話３８７５－４３２１）

不二教室名			段	氏名（楷）						級

※規定コースの**段級を必ず記入してください**。
記入のないものは段級不明となります。
※バーコード出品券と月別出品券Ⓒ～Ⓔの２枚を貼って出品してください。

つけペン（和歌）

大浪（おほなみ）に傾（かたぶ）き走（はし）るわが船（ふね）の
窻（まど）に見（み）えつつ富士（ふじ）は晴（は）れたり

〈大意〉正月に伊豆の海で、大浪に揺られながら船の窓から、くっきりと晴れた美しい富士山がみえた。
〈作者〉若山牧水（一八八五～一九二八）

随意課題出品のきまり

つけペン（短　歌）

課題　右ページの短歌を、自分の書きぶりで体裁よく書きなさい。（漢字・かなの書き換え自由・旧かなづかい使用のこと）

用具　つけペンまたは万年筆　デスクペン　ボールペンは不可　インクは黒色

用紙　ぺんの力用紙A型（B型も可）を縦に使用する。

ボールペン（横書き）

課題　右ページの文を横書きに、体裁よく書きなさい。（書体自由）

用具　ボールペン　油性・水性・ゲルインクのどれでも可　インクは黒色

用紙　ぺんの力用紙A型（名前が左にくるように横にして書く。不二教室名、段、氏名は縦書きにする。）B型も可。

筆　ペ　ン（掲示文）

課題　右ページの掲示文を横書きに、文字の位置や大小を考えて、体裁よく書きなさい。（漢字の書体は楷書または行書）

用具　筆ペン　インクは黒色

用紙　ぺんの力筆ペン用紙、またはB4版（約36・4㎝×約25・7㎝）コピー用紙を縦に使用。作品の下欄には、不二教室名・段・氏名を必ず明記すること。〈そのわくは、A型用紙（コピー可）のものを貼るか、筆ペン用紙をお求め下さい。手書き不可〉

◆二月号課題予告◆

【専攻コース】

会友～六段

『粘葉本和漢朗詠集 巻上』伝藤原行成筆より

其跡みんと雲岸寺に杖を曳ば、人々すゝんで共にいざなひ、若き人おほく道のほど打さはぎて、おぼえず彼蘆に到る。

1級～5級

水底の小魚の眼玉は寄り眼にて生意氣なれど可愛くあるも

6級～10級

松柏與龜鶴　其壽皆千年

【基礎コース】

五段～初段

日新館は戊辰戦争で焼失したが、現在は忠実に復元され、孔子を祀った大成殿や、文武両道の教場が並ぶ。

1級～5級

人間の世界には、活動できる場所はどこにでもある。

6級～10級

旧正月　猫柳　松雪草　そうしゅん　はりくよう

※課題は変更になることがあります。

昭和三十四年七月二十七日第三種郵便物認可　毎月一回一日発行　定価七〇〇円
令和四年十二月二十五日印刷　令和五年一月一日発行　第六十五巻第一号　通巻第七五八号

ぺんの力

全日本学生書道展と同時開催

書家の登龍門　厳正公平な作品本位の審査

第72回 書道學會展

第一会場　令和5年1月4日（水）～10日（火）

東京都美術館　2階第3・4展示室（東京都台東区上野公園8−36）
午前9時30分～午後5時30分まで（入場は午後5時まで）最終日は午後2時まで（入場は午後1時30分まで）

第二会場　令和5年1月4日（水）～10日（火）

東京芸術劇場　ギャラリー1（5階）（東京都豊島区西池袋1−8−1）
午前10時～午後7時まで（入場は午後6時30分まで）初日は午後3時から、最終日は午後5時まで

■部　門　創作（漢字・かな・新和様）・臨書（漢字・かな）・
漢字造型（一字書・少字数書）・写経・篆刻

入場無料

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会　【後援】文化庁・中国大使館・東京都・読売新聞社

※授賞式は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特別賞受賞者のみを対象に執り行います。

漢字かな交じり書と漢字造型　二つの新しい書美の探究を目指す

公募 第36回 不二現代書展

会　期　令和５年７月４日［火］－９日［日］（予定）

会　場　兵庫県立美術館 ギャラリー（ギャラリー棟３階）
（兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通１丁目１－１）

時　間　午前10時～午後６時
（入館は午後5時30分まで）

出品料　13,000円（税込）
※ただし部門を跨いで出品の場合は2点目以降1点につき7,000円とする。

出品要項は令和５年３月号に掲載予定です。

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会

～日本の伝統文化「書初」にご家族・団体でご出品を！～

令和５年 書初不二誌上展

作品募集

出品期間：令和5年1月11日（水）～1月17日（火）必着

表　彰　特選・金賞・銀賞・銅賞

特選・金賞には賞状及び賞品を、銀賞・銅賞には賞状を贈呈します。
特選に選ばれた作品は
不二各誌・ぺんの力3月号に写真版として掲載されます。
＊出品要項は本誌 40～43 ページをご覧ください。

〈送り先 問合せ先〉　〒101-8358　東京都千代田区西神田2-2-3　公益財団法人日本書道教育学会　書初不二誌上展係
電話　03（3234）3956
FAX　03（3234）3548

段級	不二教室
専攻	氏名
基礎	
会員番号	